

## クルリンと ほしぞらさんぽ 9月号

## なかなか晴れる夜がありません

今夏こんかの気象は、夕方まではカンカンに照っていても日暮れ頃から雲が広がってしまう、そんな日が多かったように思います。8月中はとうとう晴れの夜がほとんどなくて、星空散歩ができませんでした。これでは来年以降も夏はあまり期待できないのかなとも思ってしまいます。とすれば、ほしぞらさんぽは秋から冬に期待しましょう。

## 夏の大三角がまだ天頂に 秋の見どころ

星空散歩してごらん、びっくりしますよ。夏の「大三角」が頭の上（天頂）に見えているではありませんか。夏の星座さそり座は2時間もすると西に沈んでしまうけれど、まだアンタレスが見えています。いて座の南斗六星なんとろくせいも見え、天頂で見にくいけれどもいるか座やや座（矢座）といった小さい星座も見えていますね。それどころか春の星座の中の一等星、うしかい座のアルクトウルスまで、まだ西の低い空に見えていますよ。

夏の「大三角」の東側には大きな大きな四辺形が出てきました。他の星座にくらべて格段に大きく、そのつもりで探さないと気づかずに見のがしてしまうほどです。この四辺形はペガサスの四辺形と呼んでいますが、ペガサス座は秋の星座です。

さて次は北を向いて空を見上げると、右手には斜めにWの形でカシオペヤ座が、左手の低いところには北斗七星が、どちらもはっきりと見えていますね。このように北極星をはさんでカシオペヤ座と北斗七星が並んで見えるのは秋だけです。スケッチしたり写真に入らないか工夫したりしてみましょ。北極星はどれでしょうか。北斗七星もカシオペヤ座も北極星を見つける手がかりになることは知っていますか？ 8月号にのせてある図を見て探してみてね。また、双眼鏡がある人はカシオペヤ座の周りを見ると、細かい星がいっぱい見えているでしょう。

このように9月の星空はなかなかぎやかなんですよ。おまけに南東にはひときわ明るく見える1等星？まで。これは今はやぎ座にいる土星で、明るさは0.4等、80倍ぐらいの望遠鏡があれば土

星の輪が見えるでしょう。望遠鏡がない人は、

子ども科学館の観察会「クーデの日」に申し込みましょう。9月9日（金）です。

## 天の川は…？

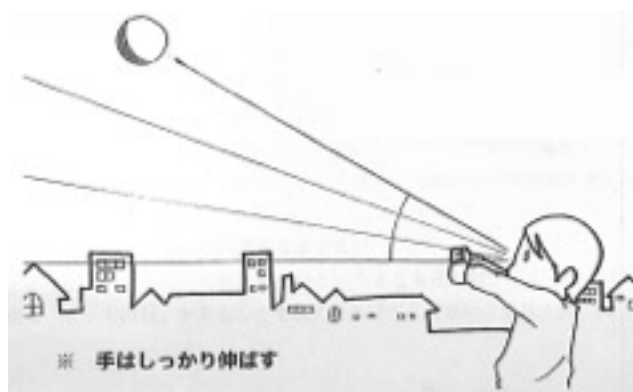
夏が過ぎてしまったので今年は天の川が見られなかったな、なんて思っていないですか。次ページの国立天文台の図を見てごらん。中央を横断するように白っぽくなっているのが天の川ですよ。ということは、秋になっても天の川は見えているのですね。もちろん空が暗い場所でないと見えませんが。

## お月見 中秋の名月ちゅうしゅうのめいげつ

江戸時代まで使われていた昔の暦こよみ（旧暦きょうれきと言います）では7月、8月、9月を「秋」と決めていました。そして秋の真ん中の月である8月は「中秋」と呼ばれましたので、旧暦8月の満月は「中秋の名月」と呼ばれていたのです。2022年は9月10日がその日（旧暦の8月15日）にあたり、満月です。

毎年このころの満月は高度が低く、楽な姿勢で長い時間見ていられる、秋の満月はそんな軌道を通ります。高くないので地上の風景と合わせて鑑賞できるので、より美しく感じられたのでしょうね。

気づいているかもしれませんが、季節によって月の高さは大きく変化します。見えている月の高



さを、こぶしいくつ分の高さか、図のようにして測って日記に残し、冬になったらもう一度調べてみましょう。写真にとっておくのも一つの方法です。コンパクト・デジカメかスマホのカメラで、同じ条件で撮影しておいて、後で月の高さを比べて見ます。「同じ場所で」「できれば満月の前後」がポイントです。

### 9月の空に見つけたい星々は

西の空に低いうしかい座のアルクトゥルス（なんとなく赤っぽい、0等、37光年）、南のさそり

座のアンタレス（これも赤っぽい、1等、550光年）。天頂近くではこと座のベガ（0等、25光年）、わし座のアルタイル（0.8等、17光年）、はくちょう座のデネブ（1.25等、2600光年）。つまり夏の大三角…。

東の空にある明るい土星（9月は0.4等ぐらい）ともっと東の木星（9月には-2.4等ぐらい）、土星の左下にある1等星みなみのうお座のフォーマルファウト（1.7等、25光年）。

そして北極星（2等、430光年）も確認しておきましょう。

